

今、あらためて被災地支援を考える

# 香川の思いを被災地へ!

三月十一日の東日本大震災発災以降、本場に多くの人が様々な形で支援活動を行ってきました。二〇二二年が終わろうとする今、あらためて香川の地から何が出来るのかを考えていきたいと思います。



5月、JR新地駅周辺(海岸から約500m)を歩く山本。翌日は全国から集まった人々とボランティア作業に従事。

## とにかく、被災地へ

こんにちは。県議会議員の山本です。  
私は県職員時代に阪神・淡路大震災の応援派遣、また二〇〇四年の台風・高潮災害時には危機管理課に所属していたこともあり、東日本大震災発災後は本場に居ても立ってもいられない状態でした。しかしながら、当時の高松市議会や自分自身の県議選さらには当選後のバタバタが続く中で、ようやく被災地訪問の思いが実現したのはゴールデンウィークが終わった五月中旬でした。

向かったのは福島県東部の海岸沿いいわゆる浜通りの最北端に位置する相馬郡新地町ややはりここも津波で大きな被害を受けていました。実は新地町は後輩の五味観音寺市議が中学生生活を送った町で、支援物資を一人で連んで行くというので、私も同行させてもらうことにしたのです。

当時、町役場には自衛隊のみならず常駐して、庁舎内にはおおくなりになり行方不明になったりした方々の情報が所狭しと貼り出されていました。町長さんから当時の様子を聞かせていただいた後、私たちは道が残っている限り海岸付近まで車を走らせました。被災地の様子はアレヒヤと通じて知っていたのですが、やはり自分の目で直接見た印象とその衝撃は比べ物になりま

せん。辺り一面の瓦礫。破壊された駅。曲がったレール。寸断された道路。そして、無造作に転がりひしゃげた車。住宅街はもはや跡形もありません。私たちはかつて人々が普通に生活していたであろう場に佇みながら、ただただ自然の圧倒的な力をそれと比べて人間の無力さを痛感していました。



## 「ありがとうね。」

新地町で特に印象に残っているのは、当時避難所暮らしをされていたある女性の娘です。海岸近くに住んでいた彼女の母親さんと買い物途中に震災に会い、最初は役場横の体育館、次は山の手の小学校、最後はさらに高台にある中学校まで、パニック映画さながらに大勢の人と逃げ込んだそうです。その際、一度家に戻ろうとした人は軒並み津波の犠牲になってしまったそうです。目の前で家

## 求められるマッチング機能

その後も八月には宮城県仙台市へ、十月には小川淳也衆議院議員のツアーで岩手県陸前高田市へ、さらに十月には宮城県亶理郡亶理町を訪れ、ボランティア活動を行いました。



10月 岩手県陸前高田市で瓦礫撤去作業。(手後ろ姿が山本)

行く度に感じるの、やはり東北は「遠い」。ということ。遠い分だけ経済的負担も伴います。これはもう現地に行くこととする限りは、如何ともしがたい問題です。しかし、それでも現地に行き何らかの支援活動をしたいのだけにとどまらず、行けばいいのかわからないという方も実は少なくありません。被災地支援に関しては、こうした支援する側の希望と実際の被災地側のニーズとの確かなマッチングが重要になります。なぜなら、それがうまく機能していなければ、単なる善意の押し付けになってし

まっからです。

私も県議会でこのことを取り上げたのですが、まだまだ思うような結果にはなっていないですね。

引き続き、行政や各種団体と協力しながらこの問題に取り組んでまいります。

## 後回しにされる問題

また、災害時に優先されるのはまず人命であり、例えば被災ペットの保護などについては、どうしても後回しになります。

東日本大震災でも多くのペットが死に、さらにペットを連れ戻ろうとして亡くなられた飼い主さんもうろっやいます。ペットを家族同様に考えている人にとって、被災ペットの保護や避難先での飼育の有無、手放さざるを得なくなった時の対応等については大変悩ましく、且つ心の痛む問題です。

この問題も県議会で取り上げた結果、香川県では広域災害時のペット保護のあり方について、検討していくことになりました。



9月 動物愛護フェスティバルでは被災犬の里親探しも。

## 私たちができること

被災地支援について、ぜひ考えてほしいのは、「もし、香川県で大規模災害が起こったら……」という視点です。

身も蓋もない言い方かもしれませんが、「自分たちが被災した時も助けてほしいから、被災地を助けるんだ」ということで良いと、私は考えています。

高い志を持って被災地支援を行うことは、人間として尊い行為だとは思いますが、現実にはなかなか続くことではありませぬ。香川に暮らす私たちは被災地から遠い分だけ、息切れしない方法で被災地支援を考えていくことが効果的だと思います。



11月 亶理町でうどんの炊き出し。

ボランティアであれ観光であれ、現地に行ける人は行っていただいて、香川に残る人は残って支援活動を行う。仮に何もなくても、普段は忘れていても、時々思い出して被災地のことを考える、それだけでも十分意味のあることだと考えています。

## 「困ったときはお互いね。」

あらためて、この言葉を胸に、みなさんといっしょに被災地支援について考えていきたいと思っています。

## 小川淳也 衆議院議員

### インタビュー

Profile  
1971年 高松市生まれ。  
2005年 衆議院議員選挙初当選(比例区)  
2009年 衆議院議員選挙当選(小選挙区)  
2009年9月~2010年9月 総務大臣政務官  
2010年9月~党政策調査会副会長  
<http://www.junbo.org/>



山本 今回小川さんは陸前高田市への支援ツアーを企画されたわけですが、実施後の感想はどうですか？  
小川 まずは、山本さん始め約三十人のツアー参加のみなさま、そして受け入れていただいた陸前高田市のみなさまにあらためて感謝を申し上げます。  
山本 現地まで直に見た被災現場や瓦礫の山は、本当に衝撃的でした。しかしその分、みんなも瓦礫撤去作業には力が入っていたと思います。  
小川 みなさん、重労働にも関わらず、本当に一心不乱に作業をしてくださいました。私たちのあの日の作業は全体からするとほんの小さなものなんです。それでもみなさんと力を合わせて作業ができたことは大きな喜びです。

きたことは大きな喜びです。山本 私と今回のツアーは、とても充実感を覚えました。小川 ありがとうございます。それから、現地のボランティアセンターで働く香川出身の若い御夫妻に会えたことも印象的でした。四国から来た参加者が少ない。という涙ながらの訴えは、心に響きました。山本 最後に、小川さんが考える「香川のこれから被災地支援を教えてください。」  
小川 細くても長い支援をしていくことですね。そのためにも、香川県の経済を確かなものにしていかねばなりません。香川県選出の国会議員として、しっかりと取り組んでまいります。  
山本 ありがとうございます。

## 香川県議会議員 さとし 山本悟史

Profile  
1968年 観音寺市生まれ  
1992年 立命館大学卒業  
香川県庁入庁  
2006年 香川県庁退職  
2007年 高松市議に初当選  
2011年 香川県議に初当選



<http://mossan2.com/>